

年 組 名前：

使える粗大ごみ メルカりに出品 自治体 処理費用減へ

使える粗大ごみ、メルカりで売ります。自治体がフリーマーケットアプリのメルカリを使い、回収した粗大ごみからまだ使える家具やレジャー用品などを売っている。新型コロナウイルス禍をきっかけに自宅を片付ける人が多く、粗大ごみの回収依頼が増えた自治体もある。自治体には粗大ごみの販売で処理費用を減らせるほか、市民の環境意識を啓発できる利点もある。

事業者が出品できるサービス「メルカリShops」を使った自治体による粗大ごみの販売は、2022年5月に愛知県蒲郡市と新潟県加茂市・田上町消防衛生保育組合で始まった。メルカりに手数料を払った残りは自治体側の収益となる。

蒲郡市は状態の良い粗大ごみに加え、不要になった重さ約70kgのマンホールのふた一つもメルカりに出品し、3千円で売却した。担当者は「試験的な出品だったが、需要はあった」と手応えを語る。

兵庫県西宮市は22年10月以降、ソファなど約20品を出品し、500〜2千円程度で大半を売却した。市では粗大ごみの回収依頼が増加傾向にあり、21年度は12万件程度の依頼があった。市は個人間で不要品を売買できる情報サイト「ジモティー」などの活用も呼びかけており、市の担当者は「リサイクル意識を高めた」と話す。

メルカリの調査では、家庭で1年以上使われず、理由もなく保管されている不要品は、1世帯平均で約73万5千円分に上る。同社の担当者は「家庭に眠る『かくれ資産』の有効活用を訴えていきたい」としており、個人の利用促進だけでなく、自治体との連携拡大も目指している。

(2023年1月5日付 山梨日日新聞 18面)

問1

愛知県や新潟県などの自治体は、メルカリを使って何を販売していますか。

.....

問2

この取り組みは、自治体にとって、どのようなメリットがありますか。2つ教えてください。

.....

.....

問3

家庭で1年以上使われず、理由もなく保管されている不用品は、1世帯平均で何円ですか。

..... 円

問4

今後、メルカリの担当者は、どのようにしていきたいと考えていますか。

.....